

第 9 回中部 MIST 研究会 開催報告

第 9 回中部 MIST 研究会

当番幹事 戸川 大輔

(浜松医科大学)

去る平成 30 年 2 月 24 日 (土曜日)、静岡県浜松市、JR 浜松駅から徒歩 3 分のところにある TKP 浜松アクトタワーカンファレンスセンターで第 9 回中部 MIST 研究会を開催いたしました。寒い日が続く今冬の中で、研究会当日は幸い少し暖かい日となりました。多数の参加者に恵まれ、盛会のうちに無事終了いたしましたので、ここにご報告いたします。

本会に先立ち、午前 10 時から手術室看護師を対象としたハンズオンセミナーを開催しました。午前 9 時半からの受付開始から多くの参加者にお集まりいただき、10 時から脊椎外科に必要な解剖について (大江慎先生)、脊椎外科手術の合併症対策 (長谷川智彦先生)、そして看護師の立場から脊椎外科手術を良好に進めるための看護師の心得について (岡美帆看護師)、3 名の講師からそれぞれ講演をいただきました。その後、4 社 (Medtronic Sofamor Danek, Stryker, NuVasive, DePuy Synthes) からご提供いただいた器材を用いてのハンズオンを 8 名の脊椎外科医の講師、4 名の手術室看護師の指導の下で行いました。このハンズオンは、ランチョン後にも継続され、非常に熱心にセミナーが行われました。

13 時 30 分からは研究会本会が開催され、一般演題 A (外傷・感染・腫瘍) のセッションは三重大学 明田先生の座長で、一般演題 B (変性疾患・変形) は岐阜市民病院 宮本敬先生の座長で、各 7 演題ずつの発表がありました。各演題に対して、それぞれ活発な討議が行われ、MIST の適応と意義、有効性を熟考するよい機会となりました。優秀演題賞には、江南厚生病院 脊椎脊髄センターの大内田隼先生の演題『ナビゲーションガイド下側臥位単一体位による LIF-PPS』が選ばれました。

さらに 16 時 10 分からは、関西ろうさい病院の大和田哲雄先生から、『CBT 法を用いた低侵襲 PLIF の実際と問題点～癒合率改善のための対策を中心として』という演題名でご講演をいただきました。PLIF が日本で始まったところからの歴史、概念から、その後の数多くのご経験からの椎体間固定の概念、CBT 法をより効果的に行うために原法に変更を加えた手技の変遷など貴重なご講演をいただき、聴講者からの多数の質疑応答がありました。近年のインストゥルメンテーション主体の考え方をもう一度固定術の原点に戻ってより良い固定法、より良い手術手技を求める大和田先生のご講演は、多くの聴講者の心に残ったことと思います。

本会終了後は、浜名湖ロイヤルホテルに場所を移し、夜遅くまで懇親会・本音会が開催されました。松山教授から差し入れとしていただいた愛知県北設楽郡の名酒『空』の一升瓶を皆さんで堪能しつつ、症例検討、そして恒例化しつつある(?)宮本敬先生のプレゼンテーションで、大変盛り上がりました。

本研究会開催にあたりまして、プログラムへの広告にご協力いただいた多数のメーカー、製薬会社各位、本会会場の展示にご協力いただいた会社の皆様、ハンズオンに機器をご提供いただいた医療機器メーカー会社の皆様、そして、特別講演講師招聘にご協力いただいた会社の皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

研究会の準備期間中は、同門でこの研究会の幹事でもある大和雄先生、吉田剛先生ともどもいろいろと考えながら準備をしました。何か一つでもあらたな試みをとということで、会場内に Wi-Fi を設置し、セッション中にも匿名で質問できるツイートシステム (sli.do) を試用しました。このシステムについては当科の安田達也先生に準備をしていただきました。発表者の気が散ったり、聴講者は質問の入力(パソコンだとまだよいが、携帯で質問を入力すると発表に集中できない??)など、不評(?)な部分も多々ありましたが、今後もう少し大きな会場で使うとよいのではという意見もあり、参考になりました。当日の発表者のプレゼンテーション登録、コンピュータトラブルには当科医局秘書の長尾拓さんに良く対応していただきました。この研究会全体の運営準備には、当科秘書の内山尚美さんにほぼ全面的に尽力していただきました。はちや整形外科事務局の加集さん、松下さんの仕事なくして本会は成り立ちませんでした。当日は浜松医大整形外科脊椎班の若手ドクターたちが、自分たちで考えて、指示がなくても協力してくれている姿に感激しました。本当にありがとうございました。

次回の第10回中部 MIST 研究会は、岐阜市民病院 宮本 敬先生の当番幹事で、平成30年9月8日(土曜日)に岐阜駅前 16 プラザで開催される予定です。また皆様と岐阜でお会いできることを楽しみにしております。

ご協力、誠にありがとうございました。今後とも何卒よろしく願いいたします。



